

9・4・10 までに全線開業。

3 観光地

美浜海岸・日の御崎灯台(西御坊駅)。

4 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	596	673	692
人キロ(千)	1,149	1,530	1,600
貨物輸送トン数(千t)	24	25	32
トンキロ(千)	64	45	77
旅客収入(千円)	5,636	7,526	8,876
貨物収入(〃)	2,290	2,425	3,696
運輸雑収(〃)	361	267	332
収入合計(〃)	8,288	10,218	12,904
営業費(〃)	9,770	9,922	12,011
営業利益(〃)	△ 1,483	296	892
営業係数(%)	118	97	92

(原 功)

こまつしません 小松島線 徳島本線徳島駅から小松島駅に至る 11.1km の線。徳島線に属し線路等級は丙線である。

大正 2・4 徳島・小松島間阿波国共同汽船株式会社が建設したが、国鉄がこれを借受け小松島線と呼称、さらに大正 6・9 政府が買収したものである。(森 寿男)

こまはいちず 駒配置図 (英) dog chart 第 1 種電気または電気連動装置に使用する電気連動機、第 1 種電気連動装置に使用する電気機連動機、第 1 種機械連動装置に使用する機械連動機において、信号機・転轍(てんてつ)器等がこの間に設けられる連鎖は、連動機に付属する鎖錠(さじょう)床(locking bed)内で、駒(dog)と縦駒(cross bar)とによって与えられる。駒と縦駒とによる連鎖は、連動図表の鎖錠どおりに作られる。その鎖錠の状態を示した図が駒配置図であり、原語を採ってドッグ・チャートとも呼ぶ。駒配置図の記入にあたっては、一定の形式寸法によるのであって、その形式は連動機の鎖錠床、駒の形状とその運動方向、縦駒またはタベット(ジョンソン型連動機、引出式電気連動機—G. R. S. 型—のクロス・バーをタベットという)、連動機の種類などによって、少し異なっている。引出式の電気てこを使用する連動機は、駒とタベットによるもので、現在国鉄ではほとんど使用されていない。左右回転式の電気連動機—U. S. S. 型—では、その信号てこは中央定位で、左右に回転して 2 本のとことして使用されるので、駒配置図では、てこの運動方向に対応するロック・バーの運動によって駒の向

きが変わる。電気機および機械連動機では、電気てこは前後回転式を使用しているのて、電気てこを定位から反位に引くとき、あるいは反位から定位にもどす場合のロック・バーの運動方向と、機械てこのラッチを握ったときのロック・バーの運動方向は同一である。したがって駒の運動方向は一定となる。

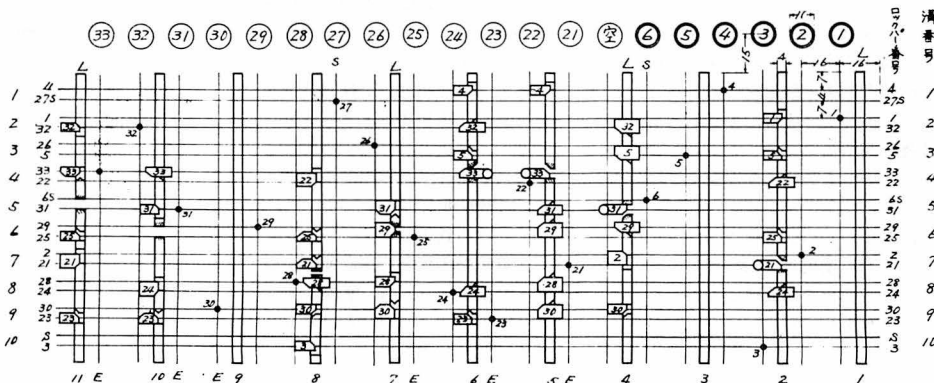
図は電気機連動機を用いた右表に相当する駒配置の 1 例図である。電気機連動機と機械連動機の駒配置の描き方は同一であって、図の上側にてこの番号を書き、連動機の後方すなわちこの裏側に立って、鎖錠床を眺めて駒の配置を書くことになっている。したがってこの番号は連動機を正面から見たときこの配列と反対に書き表わされる。すなわち連動機にてこの番号が左から右に付けられているときは、駒配置図にてこの番号は右から左に付けることになる。てこの番号は機械てこは一重丸内に、電気てこは二重丸内に、てこを設けない空所は空位とする。てこの番号の直下にロッキング・シャフトの軸線、これに直角にロック・バーを 2 本ずつロッキング・ブラケットのみぞ数だけ、てこ配列の全長にわたって書かれる。クロス・バーはてこ間に普通 1 本おきに設ける。駒組が複雑となり、1 本おきにしたクロスバーで不足するときは、必要数だけ空いているてこ間に埋めることがある。この場合は定位駒、反位駒、ゆれ駒の取付位置に注意し、隣りの駒と接しないようにしなければならない。

ロック・バーはてこの本数と同数とするのが普通であるから、ロッキング・ブラケットのみぞ数はてこの半数となるはずである。しかし信号図集ではロッキング・ブラケットのみぞ数を 5 みぞの倍数のものを使用するように定めて、製作の合理化を図っているから、みぞ数を選定するに当っては、てこの半数でもとも 5 の倍数に近いものということになる。みぞ数がてこの半数より少ない場合は、1 本のロッキング・バーを 2 本のとこに分割して使用しなければならないし、多い場合にはロック・バーは余るから余分ものは固定して使用しない。1 つのロック・バーを 2 本のとこに使用する場合は、ロック・バーの切断箇所を矢印で示し、余分のロック・バーはその両側に S の記号を付ける。またてこに関連を持たないからドライバー・ピースの黒点は記入しない。

ロック・バーはてこ 1 本について 1 本を使用するのが原則であるが、複雑な連鎖を設ける場合には、駒配置上ロック・バーを 2 本使用しなければならないこともある。

てこのラッチを握るとロック・バーは図の左から右へ運動する。駒はロック・バーにびょう付けされ、この運動を直角に交わったクロス・バーに伝える。すなわち駒の 45° 斜面とクロス・

駒 配 置 図



連動表

番号	組	鎖 錠
1	②	5 ② 25
2	②	30 ②
3	②	② ②
4	33	② 30
5	②	5 ②
6	②	② ② ②
7	②	23 25
8	②	21 ② 25 ②
9	②	23 ②
10	②	21
11	②	30 ②
12	②	30 ② 31 ②
13	②	②
14	②	33 ②
15	②	②
16	②	②
17	②	②
18	②	②
19	②	②
20	②	②
21	②	②
22	②	②
23	②	②
24	②	②
25	②	②
26	②	②
27	②	②
28	②	②
29	②	②
30	②	②
31	②	②
32	②	②
33	②	②